

組織・グループ名	NPO法人あいけあ
活動区分 ※いずれか1つに○をつける。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般助成 〔 当事者活動支援 ・ 福祉の学び推進 ・ 地域福祉ニーズ(課題)対応 ・ 地域福祉コミュニティ構築 〕 ● 協働事業助成 〔 1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動 2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動 〕
助成事業名	在宅生活をしている医療ケアの必要な障害の重い人々への訪問療育事業「i.porte」

助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。
※目的、対象、日程、会場、講師、内容、参加者人数等、実施状況を具体的に記入。

【事業の目的】

在宅生活をしている医療ケアの必要な障害の重い人々に生涯療育の機会を提供し、人との係わりや活動を通して、豊かな生活が送れるよう支援する。

【対象者】

- ①特別支援学校で訪問教育を受けている人で将来在宅生活（通所先がないか、長期で通所できない）が見込まれる人
- ②特別支援学校在籍時に訪問教育を受けていた人で、在宅生活（通所先がないか、長期で通所できない）となっている人

【日程、内容】

- Sさん 4/13, 5/12, 7/6, 8/12, 9/14 11/24, 2/2 計7回
- Rさん 4/13, 5/26, 6/29, 7/28, 8/24 10/27, 1/19, 2/22 計8回
- Jさん 4/14, 5/19, 6/30, 7/20, 9/22, 10/26, 11/23, 12/21, 1/26 計9回

実施内容を各ご家庭と相談しながら検討。それぞれのニーズに合わせて、音楽や美術などの表現活動、運動プログラム、外出や人とかかわる活動を実施。ご家庭に訪問してプログラムを実施するため、事前の連絡を密にし、感染症対策については気を付けた。

【成果】

- 卒業後に在宅生活となり、社会との接点を持ちづらくなっていた方が、在学時のような音楽や美術などの表現活動、運動プログラム、外出や人とかかわる活動を定期的に受けることができるようになった。
- 体調が安定した時に生活介護事業所に通所したり、仲間とかかわったりする機会を持つことができた。

【課題】

- ニーズはあるが、制度がない。そのため、資金源が不安定。
- 支援者のコーディネート。その人のことを良く知っている人が適切に人を派遣できればいいが人材不足で決まった人に頼ることになってしまう。今は現役教員がボランティアで実施している。

【今後の展望】

- 在宅生活をしている医療ケアの必要な障害の重い人々に、人との係わりや活動を通して、豊かな生活が送れるように生涯療育の事業化についての必要性を明らかにしていきたい。
- 特別支援学校在学時に訪問教育対象だった重度重複障害のある人は、卒業後に在宅生活となり、社会との接点を持ちづらい。該当する福祉制度がないため社会から孤立する。制度化するための小さな試行を積み重ねたいと考える。

